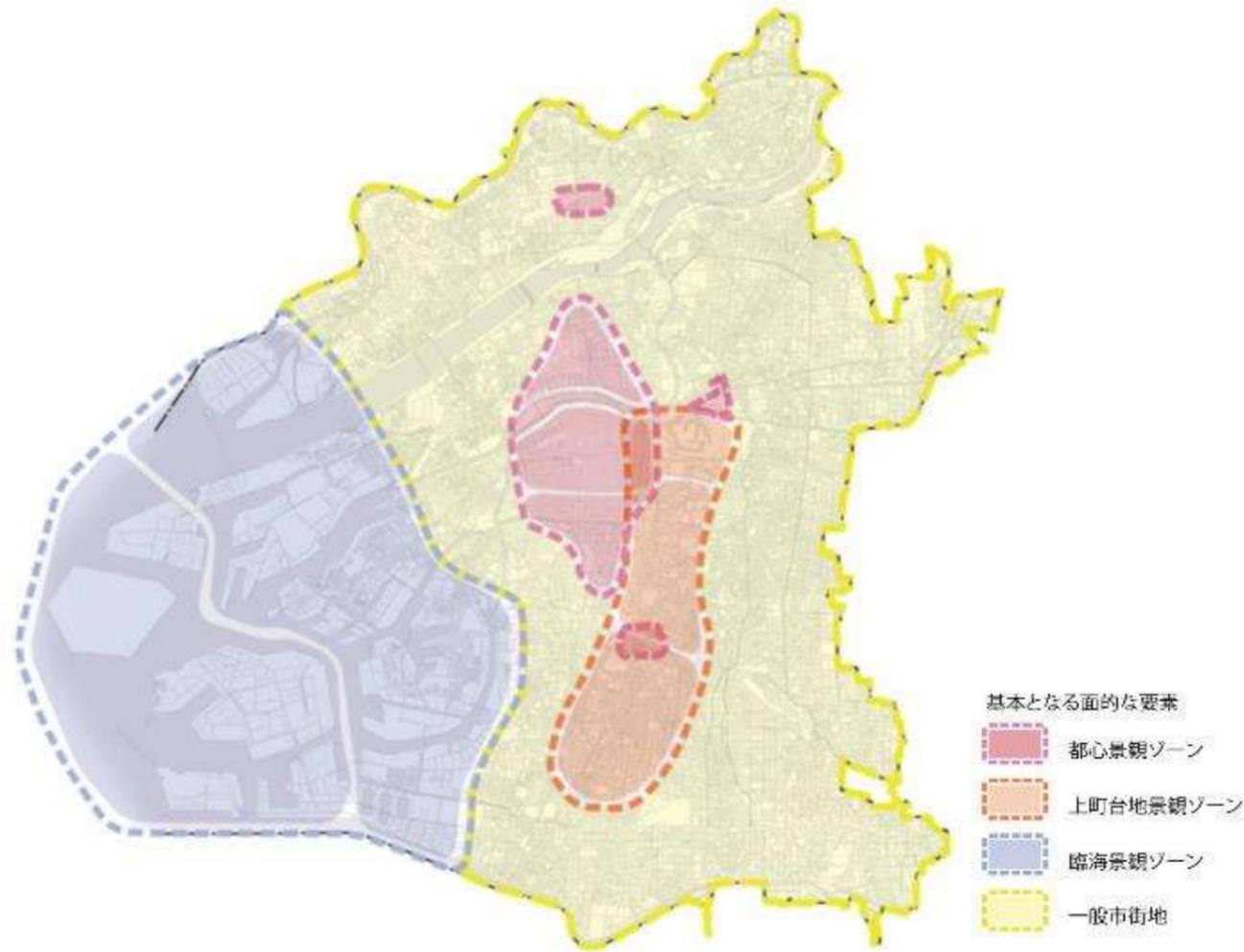


【基本となる面的な要素】

景観構造の基本となる面的な市街地のまとまりは、概ね都心部、上町台地、臨海部及びその他の一般市街地の4ゾーンに分けられる。



①都心景観ゾーン

- ・都心部の業務・商業系や高層住宅の土地利用を中心とする市街地で、比較的規模の大きな建物が高密度に立地する景観が形成されている。
- ・新大阪駅周辺、都心北部、京橋・OBP、中之島、都心中央部、都心南部、天王寺・阿倍野でまちなみの特徴は異なっている。

【新大阪駅前】

- ・新大阪駅前は、都心部とのアクセス向上や土地利用の増進を目的に区画整理事業によりつくられたエリアであり、高い交通利便を強みとし、業務系の用途が多数分布する景観が形成されている。
- ・比較的敷地面積も大きく、ボリュームのある建築物によりまちなみが構成されている。

【都心北部】

- ・大阪駅を中心とする洗練されたエリアであり、大規模な面的な整備が進められてきた駅周辺では、スーパーブロックの業務・商業系を主とする大規模な建築物から成る景観が形成されている。
- ・大阪駅の北側は近年、開発が進められており、グランフロント大阪を中心に美しく先進性が感じられるまちなみが形成されている。
- ・一方、南側や東側では、キタの繁華街が広がっており、比較的、小規模な商業系用途の建築物が集積する限界景観が形成されている。

【京橋・OBP】

- ・大阪ビジネスパークでは、クリスタルタワーをはじめとする高層建築群による洗練された印象のまちなみが形成されている。また、低層部や街路においては、大阪城公園の緑を延伸したかのような潤いあるまちなみが見られる。
- ・一方、京橋駅前においては、人々の活動が表出した活気あるまちなみが形成されている。

【中之島】

- ・風格のある川筋の景観が形成されるよう、周辺とのバランスに配慮して連続性やリズム感のあるまちなみが形成されている。
- ・中之島は、南北を河川に囲まれた独特の地形を有しており、都心部にも関わらず空間的なゆとりがあるまちなみが形成されている。
- ・かつて諸国大名の米蔵があった名残もあり、その敷地は比較的大きく、大規模な建築物が多数立地する。
- ・西部では業務系用途、中央部～東部にかけては公共・公益用途が卓越する。

【都心中央部】

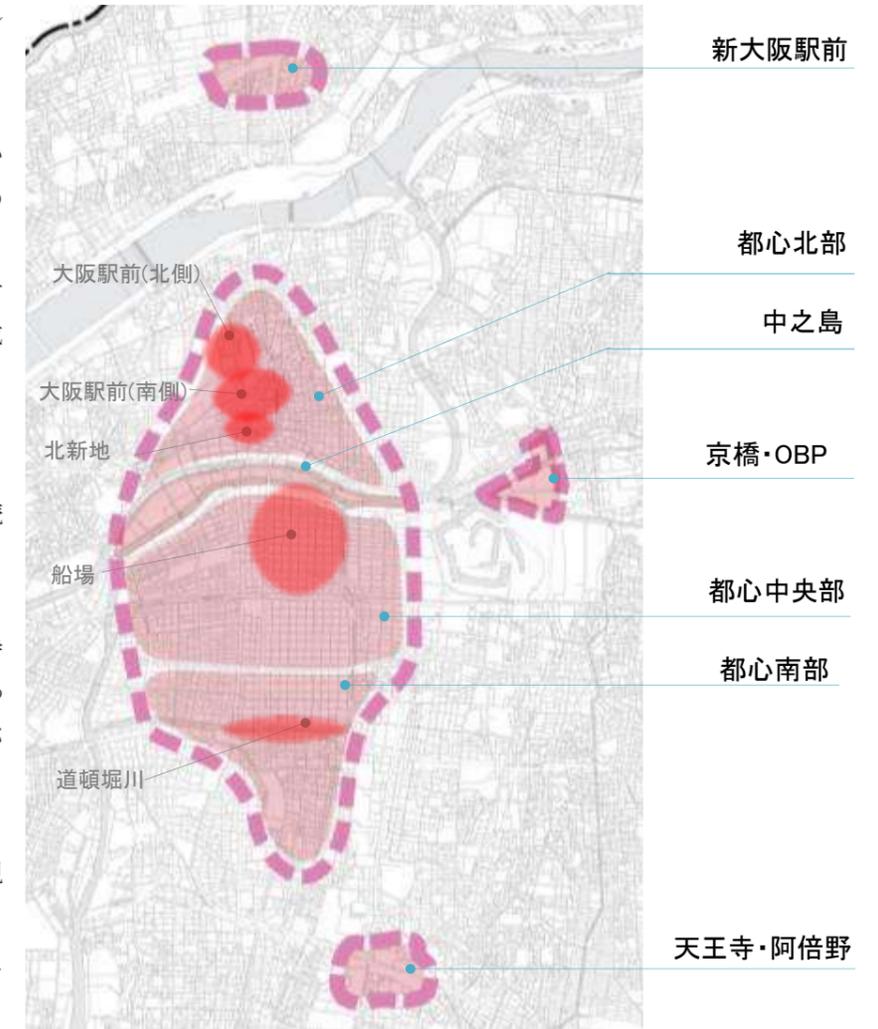
- ・幹線道路沿道には多様な用途、規模の建築物やまちの成り立ちを感じさせる建築物などの歴史的景観資源が随所に見られる。
- ・船場を中心とする都心中央部は、大阪城築城と同時にいち早く市街地が形成され、近世のまちづくりを基礎に、特徴あるまちなみが形成されてきた。格子状の市街地構造を土台に、大正以降、「大通り」と「地区道路」の分化が進み、それぞれの景観特性が現れている。
- ・また、高密度な土地利用が行われる中で、まちなみの形成や、快適性の向上やにぎわい創出に向け各種のまちづくり施策が展開されてきた。
- ・一方、長いまちの発展の歴史の中で、町家建築や近代建築といった歴史的資産が残されている。

【都心南部】

- ・道頓堀周辺では、道頓堀川や千日前を中心とした芝居小屋を起源とする繁華街や商店街など多様な境界が連担し、他のエリアに比べ、商業系用途が卓越している。
- ・湊町や難波駅周辺では、面的な開発が行われ、大規模な建築物から成る景観が形成されている。

【天王寺・阿倍野】

- ・ターミナル駅やランドマークであるあべのハルカスを核とし、主に商業系用途からなる景観が卓越するエリアである。
- ・大規模な商業施設や超高層ビル、入組んだ境界など多様な景観が連担する特徴を有している。



②上町台地景観ゾーン

- ・地形の高低差による坂道・斜面や多くの寺社仏閣、豊かな緑により周辺の市街地とは異なる特色を有する一帯である。
- ・大阪城公園周辺、夕陽丘周辺、帝塚山周辺でまちなみの特徴は異なっている。

【上町台地北部】

- ・かつて大阪城の城下町として、はじめに市街化したエリアである。
- ・緑豊かな大阪城公園を核とし、現在では、公共施設を中心とした比較的規模の大きい建築物が立ち並ぶ。
- ・大阪城の天守閣は、広域から眺望することができる大阪を象徴するランドマークとなっている。

【上町台地中央部】

- ・古くより人々に住まれてきた一帯であり、大阪の歴史・文化の発祥地である。
- ・上本町駅前においては、大規模な商業ビルや演劇場などからなる、かつてのターミナル駅周辺にふさわしい風格のあるまちなみが形成されている。
- ・夕陽丘周辺では、豊臣秀吉・松平忠明の頃に集積した四天王寺まで続く寺町など、多数の歴史的資産が景観に深みを与えている。また、風致地区に指定された崖線の緑や、多数の社寺林により、緑豊かなまちなみが形成されている。
- ・また、高低差の大きい上町台地の中でも特に坂や斜面が多く、立体的なまちなみが形成されている。

【上町台地南部】

- ・帝塚山周辺においては、風致地区の豊かな緑や比較的敷地の大きい戸建住宅により潤いとゆとりあるまちなみが構成される一帯である。
- ・長屋建住宅など大阪のくらしを伝える文化的な景観資源が散見され、景観に深みを与えている。



③臨海景観ゾーン

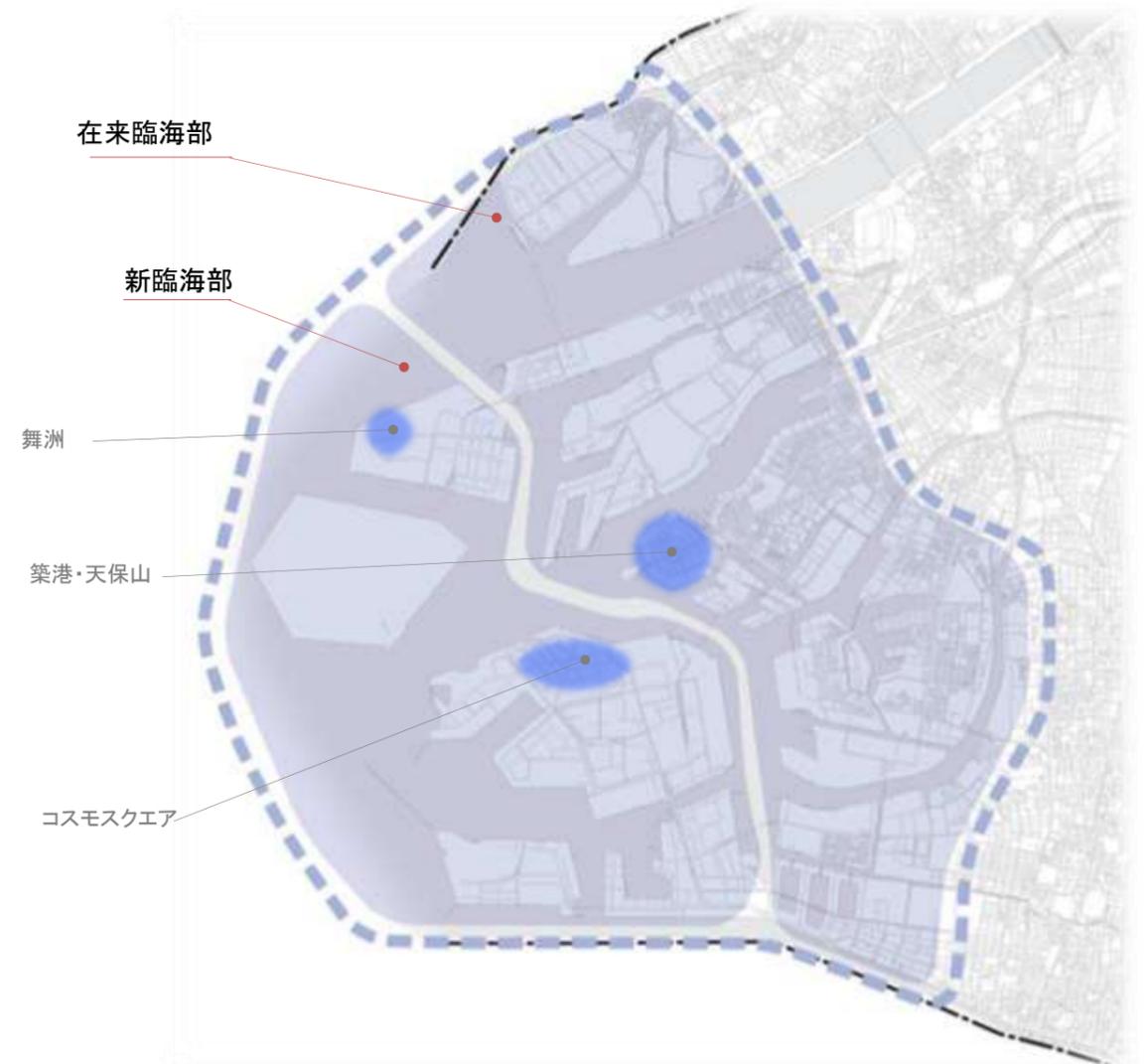
- ・工場や物流系の土地利用を中心とし、敷地面積及び建物のスケールが他の市街地と比して大きい街地で、海岸線はエッジとして見る（視点場）・見られる（視対象）の関係を生んでいる。
- ・比較的新しい時代に埋め立てられた新臨海部とそれ以前に形成された在来臨海部で景観の特徴が異なる。

【在来臨海部】

- ・明治中期から埋め立てられ、新臨海部より内陸に位置するエリアである。屈指の貿易港として発展してきた大阪湾であるが、本エリアにおいては工業系用途からの土地利用転換により、業務・商業・観光・住宅など、多様な土地利用が分布している。
- ・沿岸部においては、比較的ボリュームの大きい建築物が多いが、内陸側では、小規模な住宅などが卓越する。
- ・築港・天保山においては、港町らしい水辺の魅力と観光地としてのにぎやかさが共存するまちなみが形成されている。

【新臨海部】

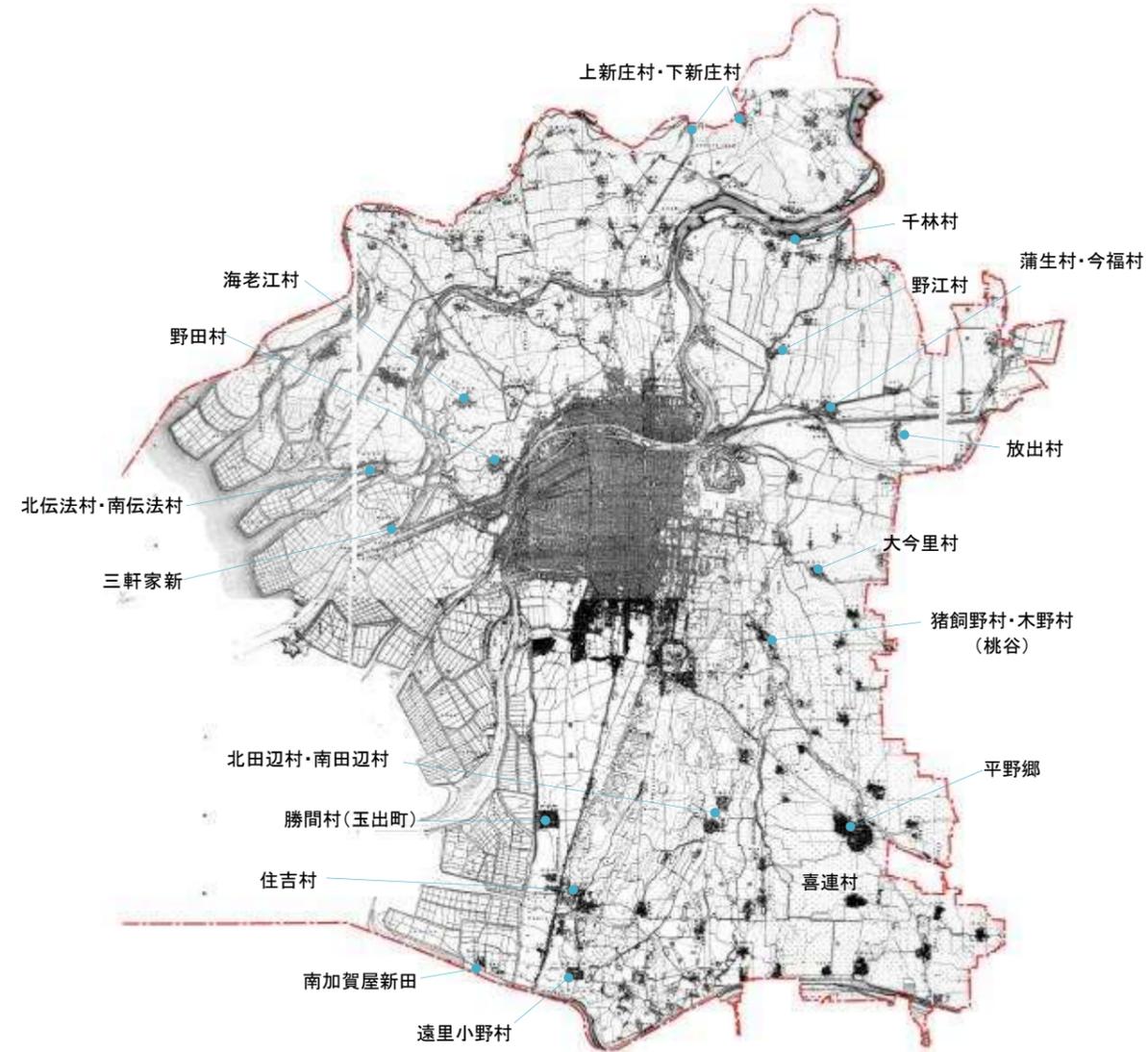
- ・昭和中期から埋め立てられ、沿岸部は主に倉庫や工業系用途が発達するが、コスモスクエアなどの高度利用が図られた集客拠点や舞洲などのレクリエーション拠点、またニュータウンなど、地区毎に性格の異なる機能集積が見られる。
- ・敷地に余裕があり、大規模な建築物が多く、対岸からはランドマークとして眺望される。



④一般市街地

- 一般市街地では、古代から中世の農村や漁村を起源とする旧集落や旧街道沿いにおいて町屋などの歴史的資源が点在するほか、市民の活気が感じられる商店街などの限界景観や、親しみの感じられる居住地景観など、地域ごとに形成されてきた多様で個性的なまちなみがパッチワーク状に連担していることが、共通する景観特性となっている。

(参考)市内の旧集落の分布



出典：大阪都市地図（明治前期・昭和前期）

【骨格となる軸的な要素】

基本となる面的なまとまりの上であって、河川及び幹線道路が景観の骨格となる軸的な要素となっている。

①河川景観軸

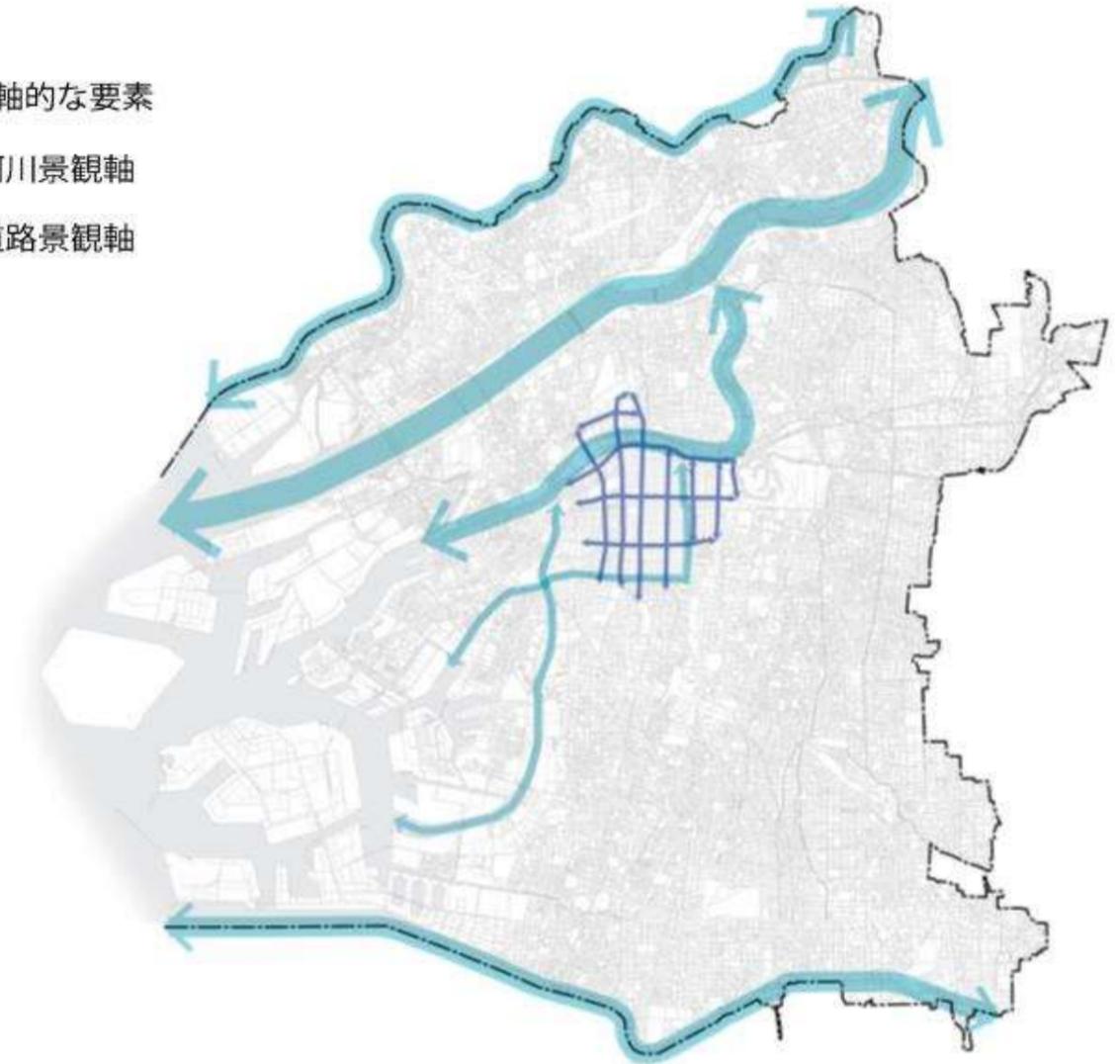
- 淀川や神崎川、大和川といった大河川は、広大なオープンスペースとして機能し、沿川の建築物などは対岸から眺望されるため景観に与える影響も大きくなる。特に高層のものなどは、ランドマークとして認識される。
- 大川や都心部をコの字に流れる川（堂島川・土佐堀川、木津川、道頓堀川、東横堀川）からなる水の回廊は、親水性が高く市民や観光客などが水辺景観を楽しめる空間となっている。
- 近年では、舟運が活性化され、河川上が新たな視点場としての役割を得つつあり、街路景観とは異なったまちなみ（沿川景観・かわなみ）を臨む機会が増加している。

②道路景観軸

- 幹線道路は歩道や街路樹が整備され、多くの人々が行き交う、見通しのよい空間である。
- 沿道の建築物等は、基本的に道路側に間口を持つなど、配置等が同質なものとなり、これらが連なることにより道路に沿って移動すると連続的な（シーケンス）景観を意識することができる。
- 都心部の幹線道路では、周辺部の幹線道路とは異なり沿道市街地の密度が高いため、都市の顔らしい連続性のある街路景観としての特徴がより強く、軸的な骨格要素となっている。

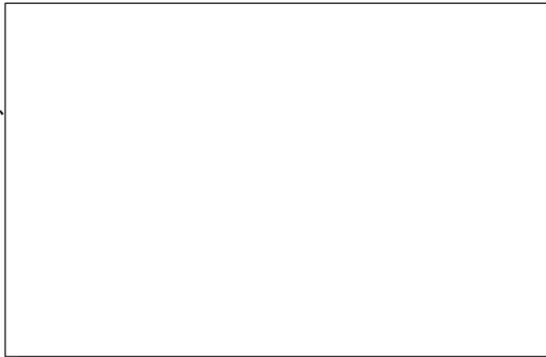
骨格となる軸的な要素

- 河川景観軸
- 道路景観軸



(1) 市域全域の景観に係る課題

- これまで、市域全域の景観を高めるため、大規模建築物等については、一定の誘導を行ってきたが、突出した色彩の建築物などの地域の景観を阻害する要因も出てきている。今後は、より全体の水準を高めていくことが求められる。
- 地域特性に応じた景観誘導を図るとともに、地域主導の取り組みとの連携をとりながら、個性がありかつ、より景観まちづくりに対し積極的な地域を掘り起こすことで、地域らしきのある景観形成を図っていくことが求められている。
- 近年、都心部を中心に光景観の創出の取り組みが見られるが、住宅地において周辺にそぐわない夜間景観が見られるため、地域特性に応じた夜間景観の誘導が必要である。



周辺から突出した色彩の建物

(2) 各テーマの景観に係る課題

● 風格・洗練

- ターミナル駅周辺や建築美観誘導路線など、大都市大阪を象徴するエリアを中心に重点的な景観施策を進め、都市的で洗練された建物が建設されてきた。
- 大規模な更新が概ね完成を迎えるエリアにおいては、高度化が進み大都市らしい大ボリュームのまちなみが形成される一方、広告物の掲出に統一感がないなどの課題もある。
- 今後、高度化を図るエリアについては、新たな都市の顔としてふさわしい景観形成を図る必要がある。
- 来街者が多いが、十分な歩行者空間が確保されておらず、安全性・回遊性を高める必要がある。また、低層部において歩いて楽しい空間づくりなど、にぎわい創出の工夫が求められている。
- 都心においては、予てより基盤の整備が行われており、近年に至り老朽化している施設や交通分担の遷移といった社会的変化への対応が求められる施設もあるため、これらの更新の機においては、大都市として先進的な景観の形成に寄与する整備が求められる。
- それぞれのエリアの成り立ちや特性に応じて詳細に景観形成を図っていくことが必要である。



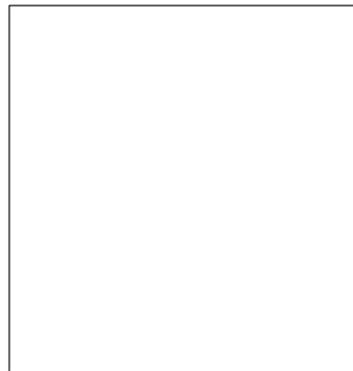
屋外広告物の多い幹線道路沿道の景観

● 水・緑

- 人々に愛されてきた親水空間や視点場となる橋梁など、優れた水辺の景観が数多くある。幹線道路沿いや河川沿い、都市公園や風致地区などには豊かな緑が保全・整備されてきた。
- 公園や緑地、水辺などの公共空間に隣接するエリアでは、



河川・公園側に向けられた彩度の高い大きな屋外広告物

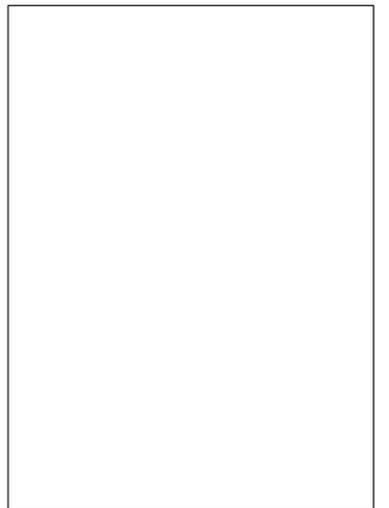


生活感が露呈した住宅バルコニー

- 広告の設置や住居等としてのニーズも高い反面、雑多な印象や生活感が感じられるなど落ち着いた景観を阻害する要因も見られるため、周辺景観と調和した景観誘導が求められる。
- 現在、観光客を対象とした舟運が活性化しつつあるなど、河川沿いや海辺沿いの建築物等は、水上や対岸、橋梁からの見えに配慮し、形態意匠を工夫する必要がある。
- 緑が卓越する上町台地では、これら緑を生かし、より緑影濃く特徴づけることが求められる。
- 河川沿川など水辺については、これまで実験的に公共空間を活用する取り組み等が進められてきた。このような活動と並行し、水都大阪にふさわしい景観形成が求められる。
- 今後、水や緑に調和した景観形成を一層進めていくことが必要である。

● 歴史・文化

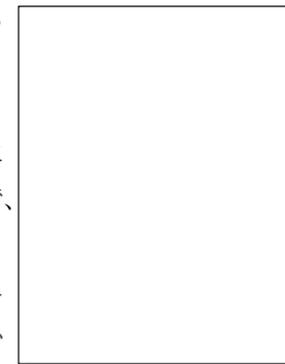
- 大阪の歴史や文化を今に伝える優れた歴史的・文化的資源が船場周辺や上町台地周辺を初め、市域全体に点在し、深みのある地域景観を生み出している。しかし、建築物の更新などの際の景観形成において十分に保全・活用されているとは言い難い。
- 歴史・文化的資源が残るエリア（特に住居系の土地利用が多いエリア）では、スケールが乖離した建物や個別の資源と調和しない建物も見られる。地域で継続的に歴史・文化的価値を共有しながら、個別の資源を活用した景観形成を図っていくことが必要である。特に傾斜下からよく視認できる上町台地のエリアでは、建築物の形態意匠を工夫することが求められる。
- 特に点在する個性的な近代建築などの保全や活用が進められている船場界隈や、古代より人々の生活の営みが積み重なって市街地が形成されてきた上町台地では、景観資源となる近代建築や寺社仏閣を活用した特徴ある景観を形成していくことが求められる。



歴史的なまちなみと調和しない塀や広告物

● にぎわい・活気

- 地域の商店街や観光地での人々のにぎわい、各種イベントの風景や演出された夜間景観など、様々なにぎわいの風景が大阪ならではの特徴的な景観となっている。
- にぎわいに寄与しているものの、一方では雑多・無秩序な印象を生んでいるともとれる建物、広告物が氾濫するエリアもある。にぎわいの質についてエリアごとに方向性を定め、適切な景観形成を図る必要がある。
- 道頓堀川沿川などでは、「整然とした都市的美しさ」とは異なる、多様なにぎわいや活気のあるまちなみが見られ、大阪らしい景観の特徴の一つになっている。こうしたまちなみは、大阪を代表するイメージの一つとして市民にも人気が高いことから、大阪らしさを生かしながら、不快感を与えない一定の秩序をもったにぎわいのあるまちなみを形成していくことが求められている。
- 都心部においては、デジタルサイネージやメディアファサード等の新たな技術・枠組みに対しても景観上の役割・価値を評価した上で、活用・規制の方向性を検討する必要がある。
- そのあり方を検討しながら、大阪らしいにぎわいの景観形成を図っていくことが必要である。



面積の大きいメディアファサード



にぎわいを感じられる反面、雑多な印象を受ける景観